

3. 安全 ※自然災害により、安全な利用が難しいと判断した場合、施設を閉鎖することがあります。

(1) 野外活動中の事故の発生と安全対策

プログラム	傷病の種類	主な原因	対策
入所時	乗り物酔い・腹痛	環境の変化による緊張・情緒不安定など	安静、健康観察
入所 オリエンテーション	熱中症・貧血	車中・前日の疲れ、日照や気温など	木陰・風通しの良い場所を選ぶ・帽子の着用・水分補給・安静
移動中	打撲・捻挫・虫刺され・擦傷	行動中の行為	場内の危険個所の事前確認・ルールの周知徹底
野外炊事	火傷・切り傷・食中毒	用具の使い方 火の管理・食材の保管状況	自炊時の注意徹底・食材の管理・手洗いの推奨
川遊び	打撲・溺れ	水温や気温、水深など水泳場所の選定、時間的配慮不足、疲れなど	参加者の健康状態の確認・救命胴衣(ライフジャケット)と靴の着用・水泳場所の事前確認 大人の引率(監視)
キャンプファイヤー	火傷・打撲・捻挫・虫刺され	度を過ぎた趣向・営火従事者の服装など	移動時の照明確保・火の取り扱い事前指導・軍手・長ズボン・上着の着用
就寝時	打撲・捻挫・擦傷・虫刺され・腹痛・発熱	環境の変化による緊張・情緒不安定など	健康状態の観察・排便の状況・就寝場所周囲の安全管理
夜間	腹痛・発熱・体調の不良	環境の変化による緊張・情緒不安定・太陽熱の浴びすぎによる生理機能不順・疲労・寝不足・風邪気味	事前の健康チェックによる保護・発症の恐れのある時は医師へ連絡・快眠への環境づくり
起床時	腹痛・発熱・体調の不良	疲労・寝不足・風邪気味・便秘・下痢	規則的な排便・適時の休息・寝具乾燥
フィールドプログラム	かぶれ・有害生物による被害・捻挫・骨折・切傷・擦傷・熱中症	マムシやハチ、ウルシ等による被害	有害生物避難場所の確認・場内危険個所の事前注意・プログラムの危険度や用具説明、健康観察・装備点検

★事故

- 万が一事故が発生した場合、応急処置の後に事務所に怪我の程度、症状、発生の状況などを連絡してください。症状の程度により、付近の病院または、救急(119)に連絡します。
- 緊急対応の車両は各利用団体においてご準備ください。
- 自動体外式除細動器(AED)を1台、事務所前に備えています。

★熱中症について

- 事務所前に暑さ指数(WBGT)測定器を設置します。活動の参考としてください。
- また、31℃を越えた場合、事務所にて掲示致します。

★川遊びについて

- 川遊びする際は大人の引率が必要です。川遊び後は体をシャワーなどで洗い流すことを推奨します。
- 川原の利用可能時間：9時～16時まで(シャワーの時間を含む)
- 服装
 - 水難事故に対する必要最低限のリスク対策として救命胴衣(ライフジャケット)を必ず着用してください。レンタル(P5参照)もおこなっておりますので、必要な方はご連絡ください。(数に限りがあります)

※紛失または故意に破損した場合は、1着につき¥3,000の弁償費が発生します。

○裸足での入水はご遠慮ください。流されにくいかかとのあるマリンシューズなどを履いてください。